

栄ちゃんの

# 熱血・演歌塾

昭和放浪記編



昭和と言う時代が行き過ぎて早や四半世紀の月日が流れました。戦前、戦後と価値観の違う時代を、雄々しく又、健気にも生き抜いて来た男の回想記です。

友と激論を交わし涙した日々、又家族の笑顔にぬくもりを覚え、故郷の豊かさや、淡い水彩画にも似た初恋に思いを馳せて、男の胸の奥に住む熱い思いを万感の思いを込めて歌います。

この歌の曲調はマイナーで作られていますが、全体のトーンは明るくリズムに！これがこの歌の持つ生命線です。

歌われている詩の世界にその時を生き抜いて来たナマな感情に命を吹き込むように歌って下さい！

それでは行ってみましょう。

～泣あーいてえわたああった～、～はしいもおあーる～。一行目は声を前に明るく出す事を心がけて下さい。口の開け方も大きく開いて。

リズムが結構ハッキリしていますからそれに乗り遅れ無いように。

そして～橋い～のしい～はこの歌の中で一番低い音域です。しっかりその音を響かせて下さい。

この音域を響かせる事に依って、歌全体のスケール感が増します。

小文字で書いている部分は小節を回したり、声のトーンで味付けするところです。

～酔おうて一えおぼれた～、かわあもおあーる～。

一行目と二行目の最後の言葉は～あーる～。こんなシチュエーションの場合はどちらかにアクセントを付けます。どちらでもいいと思いますが、但し、両方共、同じ感じのアクセントを付けてはいけません。

単調になりますから！

一般的ですと一行目の前段で、～橋い～の部分でたつぷりと声を響かせたのでその流れでレガート（滑らかに）に歌い、二行目の～あーる～でスタッカート（歯切れ良く）に歌ったほうが良いかも知れません。その辺りは、ご自身で工夫して見て下さい。サビの部分に行きます。

音がオクターブ以上飛びますから、ブレス（呼吸）を深く摂って下さい。～過ぎいたあ月日を～  
～過ぎいた～は言葉をしっかり立てて！特に～すーの言葉です。言葉と声を眉間からヘッド（頭）に懸けて強く響かすように。この場合、サビで盛り上げる部分の技法としては、唇、歯、舌三箇所をうまく組み合わせて言葉と声を出します。しかし口の周りの筋肉を固く緊張させてはいけません。

口角や頬の筋肉をいたずらに緊張させないように！あくまでも軽やかに！口角は上げ気味に、頬はタプタプと言う感じです。そうすると首の周りの筋肉も緩みます。この相互作用を有効に使います。



しかし、まだこの歌の中の最高音部まで声の量を残して置かないといけません。

次の～過ぎいたあ～の～たあの唱法は高い音域から中音域に下降します。この時は胸に声を響かせます。

喉仏の下の鎖骨や自分の乳首あたりまでの胸骨に響かせます。

それも柔らかくですよ！強く男性的な声質や響きを強調するテーマじゃありませんから！

何故この^～たあ～強調するのかと言いますと、次のフレーズがこの歌の最高音部になります。

～月日いを～カバーし一番のクライマックスを派手に演出する為の下拵えになるからです。

サビに入ってここまでがワンプレスです。

～月日いを～ヘッド（頭）の頂点部に突き抜ける様な声で！音域的に厳しいと言う方には、裏声っぽく出して頂いてもいいと思います。それが又一个の味わいになるかも！何れにしても最後の音はバイブレーションをたっぷりと掛けましょう。

～振りかあええりゃ～ここはこの歌の中で一番大きく歌うところです。気持ちとしては今まで生きてきた紆余曲折の人生の色々を、今の時代を生きる自分の心にたぐり寄せるように。

細かく言いますと～振り～と～ ～かあええりゃ～は気持ちの乗せ方は違います。

～振り～はしみじみと感情を込める。～かあええりゃ～は大きく遠くの大勢の人に明るく呼びかけるように。「そうだろ！みんな！」そんな気持ちでこの歌い分けを明確にするとより大きな歌になると思います。～かあええりゃ～は小節をたっぷり回しましょう。

特に派手に！小節と言うより大節と言う

感じで！そうすると、次の～よくぞここまであぁーあーの行に生きてきます。

「よくぞここまで」と言う言葉で芝居ごころたっぷりに歌いましょう。一度しゃべって見てください。

喋っても自然と抑揚が着くはずですよ。～よくぞ～はちょっと時代がかった言い回しですよ！

その言い回しを楽しんで下さい。又～こ"こ"～は強調する意味でオーケストラがブレイクしてリズムに強いアクセントを付けています。ここは文字通り強拍で八分音符のスタッカートで！

リズムの縦のラインをきっちり合わせて下さい。次の～アアア～は思いっきり

レガート（滑らかに）に！声を横に揺らす感じで溜息混じりにしてもいいかも！

～命つないで～はこの歌の最低音部で、この歌でベースになる言葉です。

大事に。それも悠容と。たっぷりと。生きて来た自分の全ての年月をこの一言に凝縮する気持ちで！

～昭和放浪記～はタイトルにもなっている言葉ですからハッキリと明確に！

感情を入れるよりも大きく歌い上げる感じで歌い納めて下さい。

冒頭にも述べた様に、生きて来た時代を懐かしむ様な気持ちで

声も感情も弾むようなトーンで歌いましょう。